

序

なだらかな阿武隈丘陵と、そうそうと流れる阿武隈川、広瀬川などの自然に恵まれた我町は、文字通り「山紫水明」の里であると思います。

遠く奈良時代に、この地方は静戸郷と呼ばれ、養蚕などが行なわれていたといわれます。そして、鎌倉時代の文治年間以降、伊達氏の手によって梁川城が築かれるにおよび、一時期奥州守護府城として、あるいは、江戸時代中期からは蚕種本場として、大きな発展をし、今日に至ったものです。

このような永い郷土の歴史を知って頂く資料として、これまで、梁川町郷土史年表Ⅰ（原始～近世）、同年表Ⅱ（近代～現代）を梁川町郷土史研究会の協力によって編集して参りましたものを、昭和54年に一冊にまとめ、さらに今回再版したものです。

梁川町でも本年度から町史編纂事業に着手し、後世に誘われる町史をつくる所存であります。皆さまのご協力をお願いするとともに、この年表が、郷土研究の参考として、また、将来の町づくりを考える資料として活用頂けるならば幸いです。

昭和57年6月

梁川町教育委員会教育長

蓬 田 弘